

沿革:高知市民図書館

平成29年	2月	新図書館等複合施設オーテピアのロゴマークが決まる。
平成29年	1月	オーテピア高知図書館サービス計画を策定する。
平成28年	5月	本館(旧館)の解体工事が始まる。
平成28年	4月	新図書館等複合施設オーテピアの建設地の西側に、本館が仮設図書館として開館する。
平成28年	1月	特設文庫が春野作業所へ移転する。
平成28年	12月	市民図書館本館が市庁舎建設に伴い閉館し、移転のため3か月間休館する。
平成27年	9月	新図書館等複合施設のアピールが『オーテピア』に、併設する科学館の名称が『高知みらい科学館』に決まる。
平成27年	6月	移動図書館が大原町事務所へ移転する。 縣市図書館情報システムを新システム(iLisfera)に統合する。
平成27年	3月	第二次高知市子ども読書活動推進計画を策定する。
平成26年	7月	新図書館等複合施設の建設工事が始まる。
平成26年	8月	新図書館等複合施設の実施設計が完了する。
平成25年	7月	縣市共通利用カードの発行を開始する。
平成25年	4月	下知市民図書館が改築された下知コミュニティセンターへ移転する。
平成24年	3月	新図書館等複合施設基本設計が完了する。
平成23年	7月	新図書館等複合施設整備基本計画を策定する。
平成23年	4月	本館に「新図書館建設室」を設置する。 新図書館・新点字図書館・科学館(仮称)基本構想を策定する。
平成23年	3月	新図書館・新点字図書館・科学館基本構想報告書の答申を受ける。
平成22年	10月	新図書館基本構想検討委員会を設置する。
平成22年	6月	移動図書館業務の民間委託を開始する。
平成22年	2月	新システム(Lics-Web II)に更新。3月からインターネット予約を開始する。
平成21年	6月	江ノ口市民図書館が改築された江ノ口コミュニティセンターへ移転する。
平成20年	3月	分館“春野市民図書館”を開館する。
平成19年	3月	鴨田分室が西部健康福祉センターに移転する。
平成18年	9月	本館子ども室アスベスト除去工事のため約2か月間休室する。
平成18年	3月	高知市子ども読書活動推進計画(第一次)を策定する。
平成17年	8月	アスベスト浮遊量等の調査のため本館を8日間臨時休館する。
平成17年	7月	江ノ口市民図書館整備基本計画策定委員会を設置する。
平成17年	5月	土佐山分室を開設する。
平成17年	4月	鏡分室を開設する。 高知市保健福祉センターで赤ちゃん絵本出合い事業が開始される。
平成17年	3月	高知県事業としてのブックスタート事業が終了する。
平成16年	7月	浦戸分室を開設する。
平成16年	3月	新図書館について市民1万人アンケートを実施する。
平成15年	4月	高須分室の第二次改装を行う。
平成15年	3月	新システム(Lics-Web)を導入。4月から稼働する。
平成14年	9月	高知市保健福祉センターでブックスタート事業が始まる。 江ノ口市民図書館の基本構想検討委員会を設置する。
平成14年	8月	浦戸ふれあいセンター内に配本所を開設する。
平成14年	7月	三里・初月分室を改装する。
平成14年	5月	高知市新図書館構想検討委員会報告書が提出される。

平成14年	3月	県下横断検索システムに参入する。
平成13年	8月	秦・一宮・五台山・高須・介良・鴨田分室を順次改装する。
平成13年	7月	旭・長浜の両文化センター図書館が“旭市民図書館”“長浜市民図書館”となる。
平成12年	6月	高知市新図書館構想検討委員会を設置する。
平成12年	3月	「土佐藩戊辰戦争資料集成」を刊行する。
平成11年	11月	開館50周年記念事業を実施する。
平成11年	4月	図書館情報システムが全稼働する。
平成10年	9月	'98豪雨で大津分室が大被害を受ける。
平成9年	3月	図書館情報システムが本館と5分館で稼働する。
平成3年	7月	新館が落成し、本館にエレベーターが設置される。
平成2年	4月	自由民権記念館は博物館として市民図書館から独立する。
平成2年	3月	市制100周年記念施設として「自由民権記念館」が落成する。
平成元年	6月	御畳瀬分室がオープンし、5分館12分室体制が整う。
昭和63年	4月	本館に「自由民権記念館建設準備事務所」を設置する。
昭和59年	6月	本館に冷房が完備される。
昭和57年	4月	在宅の身体障害者(児)への図書の郵送貸出(現・宅配貸出)を開始する。 長浜市民図書館が改築された長浜文化センターへ移転、長浜文化センター図書館となる。
昭和57年	3月	昭和57年3月年間貸出冊数が100万冊を突破、1,062,873冊となる。
昭和56年	1月	昭和56年1月潮江市民図書館移転改築、子ども科学図書館を併設する。
昭和55年	4月	昭和55年4月旭市民図書館が改築された木村会館へ移転、旭文化センター図書館となる。
昭和55年	3月	「高知県歴史辞典」を刊行する。
昭和54年	4月	本館に「土佐近代資料室」を新設する。
昭和52年	3月	明治期における高知関係新聞をマイクロフィルム化する。 本館に身体障害者のための施設整備を行う。
昭和51年	2月	「高知県短詩型文学賞」が創設される。
昭和49年	4月	立志社創立百年記念事業を実施する。
昭和48年	4月	文部省から「図書館サービス網整備方策研究事業」を2カ年にわたって委嘱される。
昭和47年	3月	年間貸出冊数が高知市人口の2倍を突破(583,502冊)する。
昭和46年	12月	「高知県人名事典」を刊行、出版図書合計100点となる。
昭和46年	7月	分館“下知市民図書館”を開館する。
昭和45年	4月	本館に「視聴覚ライブラリー」を設置する。
昭和44年	3月	年間貸出冊数、旧館時代の2.3倍(272,016冊)となる。
昭和42年	12月	図書館本館を改築し、高知点字図書館を併設する。
昭和39年	10月	分館“江ノ口市民図書館”を開館する。
昭和38年	7月	分館“長浜市民図書館”を開館する。
昭和36年	6月	分館“潮江市民図書館”を開館する。
昭和32年	1月	分館“旭市民図書館”を開館する。
昭和31年	12月	“ユネスコ協同図書館事業”への加入が承認される。
昭和28年	7月	自動車文庫(小型)を増車し、2台となる。
昭和28年	6月	出版事業を開始する。
昭和26年	4月	自動車文庫(大型)を開設し、機動力をもった図書館となる。
昭和25年	4月	自動車文庫(現・移動図書館)の前身としての貸出文庫を開設する。
昭和24年	9月	高知市議会図書室の蔵書を母体に市民図書館が誕生する。